



客員研究員 市村敏伸 広坂委員長 五島愛望

2022/04/25

CRS細胞農業研究会ニュースレター

| 目次

1. ハイライト
 - オランダ政府 細胞農業分野に6000万ユーロを投資
2. 資金調達
 - UPSIDE Foods 業界最大規模の4億ドルの資金調達を実施
3. ビジネス環境
 - Motif Food Works ヘム成分に関するImpossible Foodsの特許取り消しを求めて提訴
 - 穀物メジャーのADM 代替タンパク質原料の製造拠点に3億ドル投資へ
4. 最後に

ハイライト



2022/04/14
オランダ政府 細胞農業分野に6000万ユーロを投資

Dutch government agrees to invest €60M in cellular agriculture — Mosa Meat



<https://mosameat.com>

サマリー

- オランダ政府は細胞農業分野に6000万ユーロ（約78億円）を出資することを発表。政府機関によるこの分野への出資額としては過去最大規模となる
- 今回の出資は「国家成長ファンド」による細胞農業への出資の一環で、この計画では最大3億8200万ユーロ（約496億円）が細胞農業分野に出資される予定
- 出資された予算は学術研究や細胞農業に関する教育などに充てられる。

コメント：

- 先日のニュースレターでもお伝えしたように、オランダ政府は現在、細胞培養食品の試食を合法化する法制度の準備も進めており、ここきて細胞農業への支援を加速させています。しかし、EU加盟国であるオランダで細胞培養食品を上市する場合、上市認可の権限はEUが持ちます。したがって、オランダとしては、国内での支援拡充と同時に、EUへの働きかけも必要となりそうです。

資金調達環境



2022/04/21
UPSIDE Foods 業界最大規模の4億ドルの資金調達を実施

Series C Funding Brings the UPSIDE of Meat One (Giant) Step Closer



<https://upsidefoods.com>

サマリー

- 米培養肉メーカーのUPSIDE Foodsは、シリーズCラウンドとして4億ドル（約440億円）の資金調達を実施
- 今回のラウンドは、シンガポールの政府系ファンド・Temasekと、UAEのアブダビ成長基金（ADG）が主導した
- 4億ドルの資金調達は、培養食品業界としては過去最大規模となった。

コメント：

- UPSIDE Foodsは、米国内での上市を目指すメーカーとしては最有力企業です。昨年は、ウシ胎児血清などの動物性成長因子を使用しない細胞培養手法も開発しています。しかし、当初、2021年を目指すとしていた上市目標の達成は遅れており、資金調達と並行して、当局からの認可取得に向けた動向が注目されます。

ビジネス環境



2022/04/20
Motif Food Works ヘム成分に関するImpossible Foodsの特許取り消しを求めて提訴

Motif FoodWorks moves for Impossible Foods' patent to be revoked



<https://www.fooddive.com>

サマリー

- 米代替肉大手のImpossible Foodsが、同社のコア技術であるヘム成分の特許侵害を理由に、ヘム成分のHEMAMIを開発・販売するMotif Foodworksを提訴した事件に新たな展開（本事件の詳細は第22回ニュースレターも参照）
- Impossible Foodsは、特許を持つヘム成分に関する情報が不正に利用されたと主張していたが、被告のMotif FoodworksがImpossible Foodsの特許取り消しを求めて当局に提訴した
- Motif Foodworks側は、Impossible Foodsが特許を取得する以前から、類似の技術に関して別の特許が存在していたため、同社の特許は無効であると主張している。

コメント：

- ヘム成分はプラントベースミートの「肉感」を向上させる重要な存在ですが、代替肉向けのヘム製品分野のリーディングカンパニー2社が争う形となっています。特許の無効確認まで争いの場が広がった本件、引き続き動向が注目されます。



2022/04/12
穀物メジャーのADM 代替タンパク質原料の製造拠点に3億ドル投資へ

ADM-to-Meet-Fast-Growing-Demand-For-Alternative-Proteins-with-Significant-Capacity-Expansion-New-Innovation-Center



<https://www.adm.com>

サマリー

- アメリカの穀物メジャー・ADMはイリノイ州ディケーターにある自社の代替タンパク質原料の製造拠点に3億ドル（約330億円）を投資し、製造能力を拡大する発表
- この製造拠点では主に大豆を原料とした代替タンパク質の生産が行われる予定
- 同社は昨年、セルビアに拠点を置く、大豆タンパク質メーカーのSoyaproteinを買収しており、代替タンパク質分野での取り組みを拡大させている。

コメント：

- プラントベースミートなどの代替タンパク質の原料として使用される大豆ですが、昨今のウクライナ情勢も受けて、4月現在のシカゴ先物価格は過去最高値に近い水準まで上がっています。また、プラントベースミートの生産で好んで使用される非GMO（遺伝子組換えではない）大豆への需要も世界的に増加しており、代替タンパク質原料のコスト高の動向にも注意が必要です。

最後に

イベント告知や皆様のニュースリリースなど、本レターに載せてほしい情報や興味深い内容などありましたらぜひお気軽に共有ください。

Foot note

当サイトのコンテンツや情報において、可能な限り正確な情報を掲載するよう努めますが、情報の正確性・最新であることを必ずしも保証するものではありません。当レターに掲載された内容によって生じた損害等の一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。また、\$1=110円、€1=130円で計算しております。

メルマガ購読登録

こちらから購読登録